

科目名	実習・演習2 (レコーディングエンジニア専攻)							年度	2026
英語科目名	Training and exercises 2							学期	後期
学科・学年	音響芸術科 レコーディングエンジニア専攻 1年次	必/選	必	時間数	180	単位数	6	種別※	実習
担当教員	鎌田裕明	教員の実務経験		有	実務経験の職種		エンジニア		
【科目の目的】 スタジオシステムを理解し、作品づくりに向けた基本操作を習得する。									
【科目の概要】 実習ではメモ帳を活用して進行する。また演習は講義形式で行う実習と連動した科目である。項目により、グループで行うものや、個別に作業を行う場合がある。グループで行うものは各自の役割をつかみ、関連した仕事についても習得していく。									
【到達目標】 A. アナログ卓とデジタル卓の違いを操作・仕組みともに理解する。 B. Pro Toolsとミキサー卓の繋がり方を理解し基本的な録音操作ができるようになる。 C. アーティストとのコミュニケーションを取りながらチームで作品を作れる。									
【授業の注意点】 音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は実習関連の試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	アーティスト側の要望に応じてミキサーのオペレートができる	アナログ卓とデジタル卓を理解し必要な操作を的確に行うことができる	アナログ卓とデジタル卓の信号の流れを理解している	アナログ信号とデジタル信号の仕組みの違いを理解している	アナログ信号とデジタル信号の違いを説明できない				
到達目標 B	アーティストの要望に対して適切なPro Toolsのオペレートができる	適切な信号をCUE BOXを通してアーティストに返すことができる	Pro Toolsとミキサー卓の接続を理解でき必要な信号を外部機器に送ることができる	Pro Toolsとミキサー卓の接続を理解でき信号の録音・再生ができる	Pro Toolsとミキサー卓の接続を理解できない				
到達目標 C	チームとして作品を完成させることができる	チームの中で役割分担をし自分の動きを理解している	アーティストやスタッフとコミュニケーションをとり必要な作業を把握できる	アーティストやスタッフに挨拶ができ作業の打ち合わせができる	アーティストやスタッフに挨拶ができない				
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】 適時音響映像設備マニュアルを使用。									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 ルーブリックに基づく評価を行う。評価方法は主にグレード試験と提出物で行う。また補足的にレポート評価を行う場合もある。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		実習・演習2 (レコーディングエンジニア専攻)			年度	2026
英語表記		Training and exercises 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	卓の基本	調整卓の理解	1 マイクとライン	マイクレベルとラインレベルの理解	3	
			2 インライン	インラインミキサーの理解		
			3 卓の操作	信号のルーティングができる		
2	マイク・DI・ケーブル	マイク・DI・ケーブルの理解	1 バランス	アンバランス・バランスの違いの理解	3	
			2 インピーダンス	インピーダンスの理解		
			3 使用方法	実際にDIが使用できる		
3	譜面の見方・カウンター	譜面の読解	1 構成	楽譜を見て全体の構成が理解できる	3	
			2 繰り返し記号	楽譜の繰り返しを理解し曲を追える		
			3 メモリーロケーション	Pro Toolsにメモリーロケーションを登録		
4	Pro Toolsの操作1	Pro Toolsで録音準備ができる	1 入力設定	I/O設定の理解	3	
			2 出力設定	I/O設定の理解		
			3 メトロノーム	クリックの設定ができる		
5	Pro Toolsの操作2	Pro Toolsで録音準備ができる	1 バス	バスを利用してトラックをまとめられる	3	
			2 グループ	グループを理解し効率よく作業ができる		
			3 SSLへの割り当て	信号をミキサーへ適切にルーティングできる		
6	SSL4000E ①	信号の流れを理解する	1 ダイナミクス	ダイナミクス系の機能と利用方法を理解	3	
			2 EQ	EQを適切にかけることができる		
			3 インサート	インサートの意味と利用方法が理解できる		
7	SSL4000E ②	信号の流れを理解する	1 CUE	演者に適切に音を返せる	3	
			2 エフェクト送り	外部機器に信号を送れる		
			3 リターン	外部機器から信号を本線に戻せる		
8	Pro Toolsの操作3	Pro Toolsで録音ができる	1 REC	Pro Toolsで録音ができる	3	
			2 ショートカット	ショートカットで効率を上げることができる		
			3 インプットモニター	インプットモニターを理解する		
9	Pro Toolsの操作4	Pro Toolsで録音ができる	1 パンチイン	パンチインを理解し操作できる	3	
			2 ループ	ループ再生と録音ができる		
			3 プレイリスト	プレイリストを管理できる		
10	ボーカルセッティング	ボーカル録音のセッティングができる	1 マイクセッティング	マイクの扱いとセッティングができる	3	
			2 ルーティング	信号をPro Toolsまでルーティングできる		
			3 CUE	演者に適切なモニターを返せる		
11	ボーカル録音実習	ボーカル録音ができる	1 トークバック	演者とコミュニケーションが取れる	3	
			2 REC	Pro Toolsで録音ができる		
			3 プレイリスト	プレイリストを管理できる		
12	バンド録音セッティング	バンド録音のセッティングができる	1 マイクセッティング	マイクの扱いとセッティングができる	3	
			2 ルーティング	信号をPro Toolsまでルーティングできる		
			3 CUE	演者に適切なモニターを返せる		
13	バンド録音セッティング	バンド録音ができる	1 トークバック	演者とコミュニケーションが取れる	3	
			2 REC	Pro Toolsで録音ができる		
			3 プレイリスト	プレイリストを管理できる		
14	バンド録音セッティング	バンド録音のミックスを理解する	1 バス	バスを利用してトラックをまとめられる	3	
			2 グループ	グループを理解し効率よく作業ができる		
			3 ミックス	目標とする音に近づけることができる		
15	録音制作実習・復習	ここまでの内容をまとめる	1 ミックス	目標とする音に近づけることができる	3	
			2 マスタリング	ミックスした音を調整できる		
			3 ファイル	適切な設定でファイルを書き出せる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考等